

研究課題名

「SOS子どもの村」から考察する新しい家庭的養護の展開

研究内容と目的

現在、児童虐待問題の顕著化を背景に、国は児童に対する個別のケアが可能な家庭的養護の普及を目指している。しかし、家庭的養護の養育者は孤立しがちである、専門性に欠けるといった課題が指摘されている。こうした中、2010年4月福岡県西区今津に「子どもの村福岡」が誕生した。これは、世界133カ国で活動するNGO「SOS子どもの村」のプログラム「子どもの村」の仕組みを導入した里親家庭が集まって生活をするコミュニティである。専門的なケアを受けられる体制のもと、実の親に代わる「育親」が地域とともに子どもたちを育てる「子どもの村福岡」の取り組みは、施設養護と家庭的養護、両方の課題を解決する可能性がある。本研究は「子どもの村福岡」から今後の日本における家庭的養護の新しい展開を考察することを目的とする。

活動内容

- 2011年9月—韓国の「子どもの村ソウル」を訪問し、ソーシャルワーカーへのインタビューを実施した。
- 2011年10月・11月—「子どもの村福岡」に2度訪問し、ボランティアとして村の敷地内の草取りや子育てサロンに参加しながら、関係者へのインタビューを実施した。
- 2011年9月～10月、「SOS子どもの村」の研究者らにインタビューを実施した。
- 家庭的養護に関する文献やデータなどを整理した。
- 修士論文執筆と最終発表を行った。

成果のまとめ

今学期は「子どもの村福岡」に2度訪問させて頂くことができ、インタビューを通して有益な情報を得ることができた。また、「子どもの村福岡」の比較対象として扱った韓国の「子どもの村ソウル」を訪ね、村の作りや地域との関わり方の違いなど、同じアジアの国の「子どもの村」の様々な違いをみることができた。

後半は、集めたデータを分析しつつ、修士論文の執筆に時間を割いた。研究を通して、「子どもの村福岡」における里親家庭を支えていくための直接的、間接的な支援体制を様々な角度からみることができた。